

夢 現

～ 自分と向き合う ～

愛西市立八開中学校
2年学年通信
令和3年4月28日
No. 3 (道徳)



「友達とは、どんな存在なのだろう。」～道徳「友達はライバル」を通して考えました～

今回は、●●先生の授業でした。主人公の「僕」と康夫は、地域のミニバスケットボールクラブに所属していた。康夫は練習熱心で運動神経もよかったが、おとなしい性格で、そんなに目立つ存在ではなかった。大抵のことは「僕」が主導権を握っていた。中学校に進学し、2人はバスケットボール部に入部した。しかし、全国大会出場を目標に据えた練習は、とても厳しいものだった。康夫は、誰よりも早くコートに来て練習に取り組んでいた。康夫は確実にうまくなっていった。2年生になって交流試合をすることになった。最後の一人に康夫の名前が発表されたが、「僕」の名前は呼ばれなかった。「僕」は退部しようかとささ考えたが、発表から数日後、「もし、お前がいなかったら、俺はこんなに長くバスケットを続けられなかったし、試合に出られるようにはなれなかったと思う」と康夫が言った。交流試合で活躍する康夫の陰に、「僕」は、自分がいるようで誇らしく感じた。授業では、「友達とは、どんな存在なのだろうか」をテーマに考えました。

●● ●●くん

僕は、友達とは、一緒に笑い、泣き、楽しむ人だと思います。そして、心の距離が近ければ近いほど、仲のよい最高の友達だと思います。自分一人だけではなく、友達も思いやりたかったです。そして、お互いに高めあえる仲になりたいと思います。やはり友達とは、「素晴らしい存在」だと思いました。

●● ●●さん

私は、友達のことをこんなに深く考えたことがなく、初めてこんなに深く考え、答えを出しました。友達のことを深く考えるのは大切だとこの授業で思いました。友達とは、信頼できたりしっかり話せたりするのが本当の友達なのかなと思いました。友達はこれからも大切にしていこうと思いました。

●● ●●くん

友達とは、最初に考えたときは、何でも話すことのできる仲と思ったけれど、この授業を通して、友達とはこれからの人生を楽しく生きるための人だと思いました。友達がどれだけ大切な存在なのかということ、あらためてこの授業で思った。

●● ●●くん

授業の初めの時は、「一緒に遊んだり話したりする人」と言ったけれど、授業の最後には、「互いを思いやり支えあったりする人」という意見に変わりました。いつもとは違った感じだったので楽しかったです。

●● ●●さん

「友達」「親友」、よく使う言葉だけれど、改めて考えるとよく分からなかった。「僕」と同じように、もし同じ部活で、一緒に練習してきた友達の一人だけ試合に出たら、悔しくて悔しくて仕方がないと思う。なんで自分は出られないんだろう、努力が足りなかったんだろうかと。でも、競い合うだけが友達ではない、競い合うだけじゃ友達と呼べない。ちゃんと面と向かって本当の気持ちを伝えることが大切だと思った。「悔しいけど君の方がレベルが上だったんだから仕方がない」、そう笑顔で言えるようになりたい。支え合って、高め合って、涙も共有できるような友達が自分にもほしいと思った。

